■ 研究論文

英国 Cotswold 地域における Rights of Way と National Trail の管理・運営

Management of Rights of Way and National Trail in the Cotswold, UK

山本裕実子* 深町加津枝** 柴田 昌三**

Yumiko YAMAMOTO Katsue FUKAMACHI Shozo SHIBATA

Abstract : In England and Wales, many people enjoy walking along National Trails and Rights of Way. Rights of Way are a network of footpaths separate from the network of automobile routes. This paper clarified the management system of the National Trail and of the Rights of Way in the Cotswolds, a hilly terrain in southwestern England, through document search, interviews with stakeholders, and participant observation. We found that National Trails are managed by the National Trail Team of Natural England (a public body), and maintained by Trail Partnerships consisting of various stakeholders including a National Trail Officer, Rights of Way Officers of local authorities, landowners, volunteers, users, and local businesses. Rights of Way are managed by officers and councilors of the Rights of Way departments of local authorities, and by landowners, conservation groups, volunteers, users, and residents. In the Cotswolds, the National Trail and Rights of Way are under combined management. The Cotswolds Conservation Board maintains not only the access to the trail, but also manages local traditions and the surrounding environment. Users and volunteers are systematically organized at the local and national level and play an important role in footpath management.

Keywords : Rights of Way, National Trail, trail management, volunteer, UK

キーワード : 通行権, ナショナルトレイル, 歩道管理, ボランティア, イギリス

1. はじめに

イギリスにおいて、自然の中のウォーキングは主要なアクティビティの1つとなっている^{1), 2)}。こうした活動は、自動車のための道路ネットワークとは別に各地に張り巡らされた、歩道のネットワーク“Rights of Way”によって支えられている。Rights of Way, もしくは Public Rights of Way (PROW) は、イギリスのイングランドとウェールズに存在する「誰もがそこを通行できる権利、ならびにそのような権利の認められた道³⁾」を意味し、イギリスでは前者の「公的通行権」としてよりも後者のように道自体を指して使われることが多い。土地所有者からの権利供与があった場合、もしくは公衆による20年以上の継続的利用が認められた場合に、Rights of Wayとして登録することができる。利用方法の制限からFootpath, Bridleway, Byway Open to All Traffic (BOAT), Restricted Bywayの4つに分類され、全て種類ごとに地図に記載される。

また1940年代頃から、自動車の普及に伴って歩行者にとって危険で不快な道が増えたことにより、自動車の道路システムとは別に歩行者のための長距離歩道システムの需要が高まった⁴⁾。より広域な徒歩利用を目的として、既存のRights of Wayを繋いだLong-distance Route (長距離歩道)が全国各地に設定され、特に公式なものはNational Trailとして国に管理されるようになった。イングランドとウェールズには2016年現在、15のNational Trailが存在し(図-1)、2020年には全海岸線を繋ぐEngland Coast Pathが完成予定である⁵⁾。

Rights of WayやNational Trailのような自然やカントリーサイドを楽しむことが出来る道は、社会的・経済的に大きな価値を持つことが明らかとなっている。例えばイギリスにおけるウォーキング関連の利益は道の整備費用を大幅に上回っており、観光やレクリエーションによって国家経済・地域経済にプラスの効果をもたらしている^{6)~8)}。また歩道の存在は身体活動の増加をもたらし、健康を増進させる効果が期待される^{9)~11)}。さらにMorris

ら(2009)は、Rights of Wayは公共の財産であり歴史的な権利としての遺産の価値を持つと述べた¹²⁾。しかし、イギリスのようにRights of Wayが法的に認められ保護されている国は少なく、多くの伝統的なカントリーサイドへアクセスする権利や道は、所有権やプライバシーの問題、農業活動や都市開発等によって消滅してきた^{13), 14)}。日本においても、1970年頃から環境省によって全国に長距離自然歩道が整備され、1990年頃からは民間団体による「歩く道」事業が全国各地で展開しているなど、歩道への関心が高まっている¹⁵⁾。道は日常の移動手段としてだけでなく災害時の避難路、コミュニケーションの場、景観といった機能を持つが、都市化や自動車利用の増加による道の機能喪失や消滅、過剰なレクリエーション利用による登山道の荒廃等が問題となっている^{16)~18)}。また、地権者・居住者との利害調整の難しさ等もあり、長距離自然歩道・日常圏における歩道システムは未確立である¹⁹⁾。よって、イギリスにおける歩道管理システムを明らかにすることは、他地域における歩道ネットワークの維持にも

	National Trail	全長 (km)	正式 開通年
1	Pennine Way	429	1965
2	Cleveland Way	177	1969
3	Pembrokeshire Coast Path	300	1970
4	Offa's Dyke Path	285	1971
5	South Downs Way	160	1972
6	The Ridgeway	139	1973
7	North Downs Way	246	1978
8	South West Coast Path	1014	1978
9	Yorkshire Wolds Way	129	1982
10	Peddars Way and Norfolk Coast Path	150	1986
11	Thames Path	294	1996
12	Glyndŵr's Way	217	2000
13	Pennine Bridleway	330	2002
14	Hadrian's Wall Path	135	2003
15	Cotswold Way	164	2007

図-1 National Trail 一覧

* 京都大学大学院農学研究科 ** 京都大学大学院地球環境学

図-2 Cotswold AONB と Cotswold Way

資すると考えられる。

しかし Rights of Way や National Trail に関して、歴史的背景や法制度、利用状況の紹介はあるものの^{20), 21)}、実際の管理についての研究は限られている。

そこで本研究では、Rights of Way と National Trail の管理に関わる各主体の特徴・役割・関係性を明らかにし、イギリスの歩道管理システムの特徴と課題を検討することを目的とする。

2. 調査方法

(1) 調査地

調査地は、National Trail が存在しウォーキングが盛んな Cotswold 地域を選定した(図-2)。Cotswold 地域とは13~15世紀に羊毛産業で栄えたイングランド南西部の丘陵地帯を指し、ヘッジローと呼ばれる伝統的な生垣で区切られた放牧地や畑のなかに小さな村が点在し、古い石積みの壁や家がよく残されている。こうした景観が評価され、1966年には2038km²が国の保護区 Cotswold AONB (Area of Outstanding Natural Beauty: 特別自然景観地域)に指定された。Cotswold AONB は Gloucestershire, Worcestershire, Warwickshire, Oxfordshire, Bath & North East Somerset, South Gloucestershire, Wiltshire の7つの行政区にまたがっているが、約60%が Gloucestershire に含まれる。Cotswold AONB 内の人口は15万7000人であり、他の AONB よりも人口密度は低いが、隣接する都市の住民も合わせると約200万人が居住している²²⁾。ロンドンから車で2時間程度とアクセスも良く、日帰りでカントリーサイドを楽しむことができるため、周辺都市だけでなく世界中から多くの人が訪れる観光地である。

1950年代にウォーキング団体 Ramblers の会員 Tony Drake らが、北の Chipping Campden から南の Bath までを繋ぐ道を行政に提案し、1970年に Long-distance footpath としてオープン、2007年には National Trail に認定された²³⁾。Cotswold Way は、一部を除き、基本的に既存の Rights of Way の中から選ばれた道が設定されているため、誰でも利用が可能である。Cotswold Way はそのほとんどが Cotswold AONB 内に含まれており、歩きながら Cotswold 地域の景観を楽しむことができる。

(2) 方法

(i) 文献調査

Rights of Way の管理制度を把握するため、関連法規から管理関係者の役割を明らかにした。Rights of Way, National Trail, Cotswold Way の管理に関係する機関や団体をインターネット等で調べ、リストを作成した。また各団体の基本情報や活動について団体のウェブサイト等を調べた。

(ii) インタビュー

Rights of Way と National Trail の管理に関わる職員および団体代表者に対し、団体の運営体制、具体的な活動内容、予算、役割、他団体との関係、Rights of Way に対する認識、課題等について、2014年10月3日~11月8日、2015年11月20~30日にそれぞれ1~2時間程度の対面インタビューを行った。

(iii) 参与観察

2014年10月21日・28日・30日に Cotswold Voluntary Wardens の Central District における整備活動 (Work Party)、2014年11月8日に Cotswold Voluntary Wardens 主催のウォーキングツアー (Guided Walk) に参加し、活動の様子を観察した。2015年11月19日に Cotswold Conservation Board 主催の North Cotswolds Hedgelaying Competition を見学した。

3. 結果

(1) Rights of Way の管理

(i) 法規定上の管理

関連法規で定められた、全ての Rights of Way に共通する管理について以下にまとめる。Rights of Way は Rights of Way Act 1932 により法的に公道 (Highway) と認められ、その後 National Parks and Access to the Countryside Act 1949, Highways Act 1968, Wildlife and Countryside Act 1981, Rights of Way Act 1990 等の法律によって、その指定手続きや管理義務について規定されてきた。

地方自治体には、行政区内の全 Rights of Way の調査、地図への記載、路面の農作物以外の植物の除去といった義務が課されていた^{3), 20)}。土地所有者には自分の所有地内の Rights of Way を通行可能な状態に維持する義務が課され、Rights of Way が存在する土地での耕作や家畜の放牧などに対して制限がかけられていた^{3), 20)}。

Countryside and Rights of Way Act 2000 では、Rights of Way の登録に期限が設けられ、その期限までに登録されていなかった道の通行権は失われることとなった。また、Access land (山、湿地、荒野、草原、登録された共有地等)であれば、誰でも散策できる権利が認められた。

(ii) 管理の実態

文献調査とインタビューから明らかになった、Cotswold 地域における Rights of Way の管理構造を図-3に示し、各主体の管理実態について以下にまとめる。

地方自治体は、選挙で選ばれた議員で構成される議会が議決機関・執行機関を担っており、そのうち Rights of Way 委員会に所属する議員が Rights of Way の新規登録や変更について審査を行い、認可の決定を下していた。Rights of Way の廃止に関しては、中央政府が審査を行っていた。そして、事務部局として Rights of Way 局があり、数人の有給職員が勤務していた。職員は分担して Rights of Way の登録・路線変更の申請や問題の報告についての受付と対応、橋や標識の設置等の整備作業、各種

図-3 Rights of Way の管理体制

- Rights of Way 局全体の監督と予算管理
- 関連法規の理解と議員へのアドバイス
- 登録・路線変更の申請への対応
 - ・ 文献・現地調査
 - ・ 土地所有者との交渉
 - ・ 法的手続き
 - ・ 新聞等での公表
- 報告された問題への対応
 - ・ コンピュータシステムの管理
 - ・ 現地調査
 - ・ 土地所有者との交渉
 - ・ 強制執行
- Rights of Way の整備
 - ・ 作業計画の作成
 - ・ 業者/ボランティアへの依頼
 - ・ 現場作業（草刈り、倒木除去、ゲートや橋の設置等）
- Rights of Way の調査
 - ・ 未登録の Rights of Way 探し
 - ・ National Trail の路線候補探し
- ボランティアの支援
 - ・ 道具・材料の提供と運搬
 - ・ 技術指導
 - ・ 感謝イベントの開催

図－４ Rights of Way 局職員の業務内容

市民団体の活動支援、Rights of Way 委員会への出席等、幅広い業務を行っていた（図－４）。行政予算が減少傾向にあり、Rights of Way 職員はボランティアと協同することによって、整備費の削減や大きなプロジェクトの実行、市民とのよい関係作りを可能にしていた。

土地所有者は、Rights of Way の通行を妨げるような雑草や雑木の除去、耕耘後のルートへの明示、所有地の境界への踏み段やゲートの設置などを行っていた。

市民は、Rights of Way を利用することでその権利や道自体を維持しており、地方自治体に対して未登録の Rights of Way の登録申請や Rights of Way に関する問題の報告等を行っていた。さらに一部の市民は、ウォーキング団体・保護活動団体・ボランティア団体・地域住民団体等の市民団体に所属して活動していた（図－５）。例えば全国的ウォーキング協会 Ramblers は、地域ごとにウォーキングツアーの開催を行うだけでなく、会員費等をもとに全国規模で Rights of Way 保護のためのロビー活動や資金提供、整備活動を行っていた。保護活動団体である Open Spaces Society は、地域特派員からの情報により Rights of Way の変更申請内容をチェックし、問題があればロビー活動を行ったり、会員への助言を行ったりすることで、Rights of Way の保護を行っていた。地域のボランティア団体である Gloucestershire Vale Conservation Volunteers (GVCV) は、全国的ボランティア協会である The Conservation Volunteers (TCV) と提携し、地方自治体や土地所有者からの依頼で Rights of Way 整備を含む様々な環境保全活動を行っていた。ボランティア団体のメンバーは団体に無償で労働力を提供しているが、作業道具や装備等は団体から支給される。団体には、依頼者からの資金で運営しているものや地方自治体の技術的・金銭的支援を得ているものがあつた。

図－５ Rights of Way と関わりのある市民団体

図－６ Cotswold Way の管理体制

地域住民団体 Walkers are Welcome は、観光客の呼び込みや地域活性化のために自主的に地域の Rights of Way 整備や地図の作成、ウォーキングフェスティバルの開催等を行っていた。そうした地域住民団体は、全国的にネットワークを形成して情報共有等を行っていた。また飲食店や宿泊施設等のローカルビジネスは、Rights of Way の利用者に必要なサービスを提供しており、地域住民団体の活動支援も行っていた。

（２）National Trail の管理と Cotswold Way

（い）管理体制

長距離歩道は基本的に既存の Rights of Way を繋いで設定されるため、前述した一般的な Rights of Way と同様の管理体制がとられる。しかし、国として公式に認められた 15 の長距離歩道 National Trail においては、一般的な Rights of Way の管理に加えて国家予算による全国的な管理が行われている。

全国の National Trail の管理は、中央政府 DEFRA (Department for Environment, Food & Rural Affairs：環境・食料・農村地域省) から資金提供を受けて自然環境関連の業務を行っている公共団体 Natural England が統括しており、その中の National Trail チームの職員 8 人が National Trail の指定や広報、全 National Trail に共通する方針や基準の作成等を行っていた。また National Trail の路線は、Natural England が地方自治体の Rights of Way 職員と協働して決定していた。

2013 年には Natural England による新たな政策提言 (New Deal) により、National Trail ごとにトレイルパートナーシップが結成された。また、National Trail には 1 人ずつ Trail Officer と呼ばれる担当職員がおり、各 National Trail の管理全般に関して責任を負っていた（1 人が 2 つの National Trail を担当する場合もある）。担当職員の所属先はトレイルによって異なり、National Trail が通る行政区や国立公園局等の職員の 1 人として雇用されていた。担当職員は 1 年ごとの契約職員であり、給与や整備費等は、Natural England を通して中央政府が 75%、地方自治体が 25%を出していた。

文献調査とインタビューから明らかになった、Cotswold Way の管理体制を図－６に示す。National Trail である Cotswold Way の場合、トレイルパートナーシップ (Cotswold Trails and Access Partnership) の代表は、Cotswold AONB 全体の管理を担っている Cotswolds Conservation Board である。地方自治体や中央政府の代表からなる 37 人のメンバーと 16 人の有給スタッフで構成され、Cotswold Way 担当職員はそのスタッフの一人として雇用されていた。パートナーシップは、関係する全地方自治体の Rights of Way 職員、Cotswolds Conservation Board、Cotswold Voluntary Wardens、Cotswold Way 担当職員、利用者、ボランティア、土地所有者、旅行会社等で構成され、管理計画の検討や広報等を行っていた。

（ii）Cotswolds Conservation Board、Cotswold Voluntary

- **Work Party**：定期的に集まり協同で現場作業
 - ・路面整備，雑草雑木除去
 - ・植樹，間伐，薪炭作り
 - ・道標・ゲート・橋・階段の設置
 - ・伝統的な石垣作り，生垣作り
 - ・大会等イベントの準備・補助
- **Guided Walk**：市民向けの無料ウォーキングツアー開催
- **Parish Warden**：担当協会区内の Rights of Way の管理
 - ・定期的なパトロール
 - ・簡単な整備作業（草刈り，道標の設置等）
 - ・地方自治体への問題報告
 - ・住民との良好な関係作り
- **Cotswold Way Warden**：Cotswold Way の担当区間の管理
 - ・定期的なパトロール
 - ・簡単な整備作業（草刈り，道標の設置等）
 - ・Cotswold Way 担当職員への問題報告
- 教育活動，広報活動等

図－7 Cotswold Voluntary Wardens の活動内容

図－14 Cotswold Voluntary Wardens の活動時間内訳と会員数

表－1 Cotswold Voluntary Wardens の活動成果

	2010	2011	2012	2013	2014
設置・修復・改良された踏み段数	94	50	—	119	65
設置・修復されたゲート数	63	54	—	63	41
設置・修復されたキシング・ゲート数	107	111	—	82	104
設置された階段数	187	350	—	260	189
舗装された道(m)	353	510	—	250	400
清掃された道(m)	23291	22950	—	38564	39143
開催されたGuided walks数	295	294	—	245	365

が記録していた（図－14，表－1）。その記録によると Cotswold Voluntary Wardens の会員数は 330 人前後であり，年間総活動時間（活動時間×参加人数）の半分以上が，協同で整備作業等を行う Work Party であった。2014 年度の総活動時間は 45,639 時間であり，その価値は £304,260 相当だと推定されている²⁴⁾。Cotswold Way 担当職員へのインタビューでは，Cotswold Way の管理に関して，他のボランティア団体が不要なほど Cotswold Voluntary Wardens のボランティア数や活動内容は十分であり，業者よりも仕事の質が高いとの評価が得られた。

4. 考察

（1）Cotswold 地域における Rights of Way と National Trail

一般的な Rights of Way は，地方自治体が中心となって様々な主体とそれぞれ連携して管理する行政主導型管理であった。Rights of Way の登録や管理については，土地所有者や開発者と利用者といった主体の利害が衝突することがあるため，各主体の意見を法律に基づき中立的な立場で調整する行政の役割が大きい。

一方 National Trail は，パートナーシップによる参加型管理であった。National Trail は Rights of Way をもとに設定され

Wardens

Cotswold Way の管理において中心的役割を果たしている Cotswolds Conservation Board と Cotswold Voluntary Wardens について，文献調査とインタビュー，参与観察から明らかになった活動内容を以下にまとめる。

Cotswolds Conservation Board は Cotswold AONB 全体の植生管理や広報を行っている機関である。また市民向けに石垣作り，生垣作り，タイル屋根葺き，鍛冶，森の間伐，薪炭作りといった Cotswold 地域の伝統技術 Rural Skills の Training 講習および大会を定期的に開催していた。

Cotswold Voluntary Wardens は，Cotswolds Conservation Board の金銭的・技術的支援のもと活動するボランティア団体である。Warden として登録された会員には毎月最低 8 時間の活動が義務付けられており，Cotswold Conservation Board が開催する Rural Skills Training 講習を無料で受講することができる。Cotswold AONB を 5 地域に分け，それぞれに会員からなる委員会を設けて活動を運営しており，活動内容は実際の整備作業やウォーキングツアーの開催，パトロールなど様々であった（図－7～13）。Work Party については，地域ごとに選ばれた Work Party Coordinator が，作業依頼の受付，作業計画の作成，道具管理，他の会員への連絡，当日の現場管理責任者の任命，作業後の報告等を行っていた。また各種活動は AONB 全体で行われているが，そのうち Cotswold Way Warden は Cotswold Way に限定した活動であり，Cotswold Way 全域を 25 人の会員が分担して管理していた。

会員の登録や活動内容，成果等については，Cotswolds Conservation Board のスタッフである Volunteer Coordinator

図－8 階段の設置

図－9 チェーンソーによる雑草雑木除

図－10 間伐木を利用した炭作り

図－11 伝統的な石垣作り

図－12 伝統的な生垣作り大会

図－13 Guided Walk

るため、既に利用や管理について最低限の調整が済んでいる場合が多い。その上で、National Trail の担当職員を中心に、行政職員だけでなく民間企業や市民など多様な主体が1つのパートナーシップの中で協力・分担して、管理・運営・広報などを行っていた。

Rights of Way の本来の目的は、領主による囲い込みに反対し、市民が慣習的に利用してきた土地へのアクセスを守ることであった。しかし現在 Rights of Way は、自動車との事故や騒音を気にすることなくウォーキングやレクリエーションを楽しむことができる場を市民に提供しているといえる。また法規定上 Rights of Way が存在する土地の耕作や建築には制限がかかるのに加え、Rights of Way の消去や路線変更については市民団体・地方自治体・中央政府によって審査されるため、Rights of Way は一度登録されるとその路線上の土地利用の変化や開発を防ぐ役割を担うことになっているといえる。イギリスの伝統的なカントリーサイドとして有名な Cotswold 地域では、開発されていない景観や利用しやすい歩道は重要な観光資源となっている。こうした観光資源の保全が訪問客の増加ひいては地域の経済的利益に繋がるため、Cotswold 地域では特に地元の保全意識が高く、地域住民やローカルビジネスによる自主的なウォーキングの推進や道の整備、周辺景観の保全に繋がっていると考えられる。さらに Cotswold Way が National Trail に認定されたことで、中央政府の資金を得て一般的な Rights of Way よりも高水準に維持することが可能となっているだけでなく、全国的な知名度も高くなっており、観光資源としての価値が高められているといえる。

このように、Rights of Way や National Trail のような歩道ネットワークの維持には、法制度や行政による公的な保護と、市民や事業者の保全意識による自主的な保護の両方が必要であり、保護制度の整備と多様な価値の周知が重要であるだろう。

また、Cotswold Way は路線のほぼ全区域が1つの AONB に指定されており、計画等を作成する Cotswolds Conservation Board と実際に現場で活動する Cotswold Voluntary Wardens が、AONB 全体をまとめて管理している。そのため、保護区に指定されていない場合よりも人員や金銭的に充実した管理を行うことができるだけでなく、複数の保護区にまたがり複数団体が各々管理する場合に比べて効率的に管理することができるといえる。さらに AONB では、伝統的なカントリーサイドの景観を構成する石垣等の地域文化の継承や、道の周辺にある森林の整備も行っている。Rights of Way や National Trail の線的なアクセスの保護だけでなく、その周辺環境も含めた面的な管理を行うことで、ウォーキングの利用の質を高めているといえる。

(2) 市民の重要性

Rights of Way はもともと利用者である市民が中心となって長年オープンスペース獲得運動を展開する中で獲得した権利であり、現在でも利用者の主張が大きな力を持っている。利用者個人だけでは影響力は小さいが全国規模で結束することで、利用者代表として行政に意見したり、人手や費用が必要な大きなプロジェクトを実行したりすることが可能になっているといえる。また Rights of Way の利用者は地域経済にも大きな影響を与えている。

ボランティアは、整備作業、ウォーキングツアーの開催、定期的なパトロール、広報活動等、多様で大きな役割を担っていた。特に Cotswold Voluntary Wardens は登録人数が多く、最低活動参加時間の設定により多くの労働力の確保が可能となっている。さらに長年の活動による知識の蓄積やトレーニング講習の受講によって、高い技術を身に付けているといえる。Cotswold Voluntary Wardens の活動費は行政からの提供に頼っているが、他の地域ボランティア団体には、労働に対して依頼者から少額の作業費を集めたり自分たちでガイドブックを販売したりすることで運営しているものもあった。全国的に歩道維持のための公的な

予算が限られていく動向もあり、今後ボランティアの役割はさらに大きく多様になるものと考えられる。

5. 結論と今後の研究課題

本研究では、Rights of Way が行政主導で管理されている一方、Rights of Way を繋いで設定される National Trail は多様な主体が参加して管理していること、そして Cotswold 地域においては観光資源の管理や保護区の管理と組み合わせることでより多くの地域住民や事業者、ボランティアの協力を得ていることが明らかとなった。今後さらに他地域における歩道システムについての研究を蓄積し、地域の特徴を活かした歩道システムのあり方を検討するとともに、土地所有者や市民組織など、歩道の管理と関わりのある主体についての理解を深めるための研究が不可欠である。

補注及び参考文献

- 1) Kay G, Moxham N (1996): Paths for whom? Countryside access for recreational walking: *Leisure Studies* 15(3), 171-183
- 2) Lysiane den Breejen (2007): The experiences of long distance walking: A case study of the West Highland Way in Scotland: *Tourism Management*, 28(6), 1417-1427
- 3) 重松敏則・入倉彩 (1994) : イギリスの自然歩道システムとその運営管理について : *造園雑誌* 57(5), 25-330
- 4) Countryside Commission (1988): Enjoying the countryside, paths, routes and trails: Countryside Commission Publications, 4-20
- 5) The National Trails: National Trails HP: <<http://www.nationaltrail.co.uk/the-trails>> 2015.02.06 参照
- 6) Christie M, Mathews J (2003): The economic and social value of walking in England: The Ramblers' Association, London
- 7) Regeneris Consulting (2005): Economic and social benefits of countryside access routes in the North East
- 8) Bennett RM, Tranter R, Blaney RJP (2003): The value of countryside access: a contingent valuation survey of visitors to the Ridgeway national trail in the United Kingdom: *Journal of Environmental Planning Management*, 46, 659-671
- 9) CJC Consulting (2005): Economic benefits of accessible green spaces for physical and mental health: Scoping Study
- 10) Goodman A, Sahlqvist S, Ogilvie D (2014): New walking and cycling routes and increased physical activity: One- and 2-year findings from the UK iConnect study: *American Journal of Public Health*, 104(9), 38-46
- 11) Dallat MAT, Soerjomataram I, Hunter RF, Tully MA, Cairns KJ, Kee F (2013): Urban greenways have the potential to increase physical activity levels cost-effectively: *European Journal of Public Health*, 1(6), 1-6
- 12) Morris J, Colombo S, Angus A, Stacey K, Parsons D, Brawn M, Hanley N (2009): The value of public rights of way: A choice experiment in Bedfordshire, England: *Landscape and Urban Planning*, 93, 83-91
- 13) Peter Scott Planning Services (1991): Country access in Europe: a review of access rights, legislation and provision in selected European countries: Scottish Natural Heritage Review, 23
- 14) Helge Wulff (1991): Recreational access to agricultural land: The European experience: *Indiana law review*, 24, 1641-1655
- 15) 平野悠一郎・泉留維 (2012) : 近年の日本のフットパス事業をめぐる関係構造 : 専修人間科学論集社会学篇, 2(2), 127-140
- 16) 道尾淳子 (2010) : 旧街道の自動車交通対応の実態に関する研究 - 中山道の宿場町 67 宿を対象として - : 学術講演梗概集 F-1, 都市計画, 建築経済・住宅問題, 543-544
- 17) 持斎康弘 (2000) : 生活道路の利用・管理の変遷と地域住民の認識に関する研究 - 埼玉県戸田市喜沢 2 丁目を事例として - : 日本都市計画学会論文集 35, 331-336
- 18) 藤田剛・吉田圭一郎 (2012) : 関東山地における登山道の土壌侵食と周辺環境との関連性 : 横浜国立大学教育人間科学部紀要 4, 自然科学, 9-16
- 19) 宮崎政雄・麻生恵 (2004) : 多摩丘陵におけるフットパス計画による里山景観保全への取り組み : ランドスケープ研究, 68(2), 126-129
- 20) 平松紘 (1995) : イギリス環境法の基礎研究 - コモンズの史的変容とオープンスペースの展開 - : 敬文堂
- 21) 平松紘 (1999) : イギリス緑の庶民物語 - もうひとつの自然環境保全史 : 明石書店
- 22) 土屋俊幸 (2012) : コッツウォルズ特別自然景勝地域 : 畠山武道, 土屋俊幸, 八巻一成編著 : イギリス国立公園の現状と未来 - 進化する自然公園制度の確立に向けて : 北海道大学出版会
- 23) Tony Drake (1980): The Cotswold Way: David Sharp edited: Ramblers' ways: David & Charles: 142-158
- 24) Cotswold AONB (2015): Cotswolds Conservation Board Annual Review - Reporting on the work & achievements of the Board during 2014-2015

(2016.4.29 受付, 2017.1.18 受理)